

鈴鹿市立合川小学校		()は昨年度結果			
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上 ×ICT	1 授業改善 ・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。 (児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」90%以上) (保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」90%以上) ・全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。 (全国学力・学習状況調査、第1回みえスタディ・チェック結果 県平均以上)	○児童アンケート97 % (89 %) ○保護者アンケート100 % (98 %) 全国学力・学習状況調査 6年：国語○、算数○、 第1回みえスタディ・チェック 4年：国語○、算数○ 5年：国語○、算数○、理科○	○今年度、一斉指導型の授業だけでなく、児童が個別に学習形態や学習の進度を選択できる授業に力を入れた。 ○全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの採点を職員が行い、結果を研修部で分析して課題となる単元や改善案を提案・共有した。 ○6限目をカットするなど教職員が他校の授業公開や研修会などに積極的に参加できるようにし、授業改善に取り組みやすい体制を整えた。 ●一斉授業に慣れた低学年は、子ども主体の授業への変化についていくことが難しい。	○学力向上を目指し、改善に努めていただいていると感じます。 ○6限目をカットすることで、教職員が授業改善に取り組みやすい体制につながるの、良いことだと思います。 ○授業改善への取組の成果が出始めている様子。先生方の日々の取組はしっかりと保護者も認識できているようで、ここに信頼関係もうまれているように感じます。 ○学力向上を目指した取組の結果が、昨年度よりも良くなっていると感じる。 ・今後も学力や学習状況に応じて、問題改善に努めてもらいたいです。 ・授業参観を見せてもらい、昔の授業とはちがうと感じました。	・今後も校内研修会や外部研修への参加など授業改善の機会を確保するため、下校時間などの調整を行いたい。
	2 ICTの活用 ・日常的にICT機器を活用した協働的な学びを行い、わかりやすい授業を実施する。 (児童アンケート クロムブックを使った学習はわかりやすいですか 90%以上)	○児童アンケート93 % (92 %)	○月2回程度、ICT支援員の方に来校してもらい、授業の活用方法などを教わった。 ○ただ端末を使う授業ではなく、クラウド環境を活用した授業を各学年で意識した。 ○ICT活用に積極的な先進校の参観及び還流を各教職員が行った。 ○天栄中校区で、同じ学年の担任がチャットで頻繁に情報を交換するなど、端末を活用した授業改善に取り組んだ。	○ICTを活用し、子どもたちがいろいろな情報を共有できることは良いと思います。 ○学校で子どもたちがICT機器を活用した学びを行うことで、正しい使い方の習得にも役立つように思います。 ○クロムブックを使った学習はわかりやすいという児童が多く、先生方が工夫して授業を行っていると感じる。 ●予算削減によってICT支援員さんの授業が減ってしまったのは残念です。市P連などへ声を上げて予算額を上げてもらう要望書などを提出できないだろうか。 ・クロムブックでしている分には悪い方向にいかないと思いますが、パソコン・マイパッド・携帯などの良い使い方、悪い使い方も、多方面にわたって教えてください。	・今後も、ICT機器を積極的に活用した学習を行うとともに、情報モラル教育やデジタルシティズンシップ教育にも力を注いでいきたい。
	3 英語教育の推進 ・児童に満足度の高いコミュニケーション活動を提供する。 (児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」90%以上)	○児童アンケート98 % (94 %)	○MorningEnglishやEnglishTimeを低学年で行うことで、歌やゲーム、絵本などを通して英語に親しむことができた。 ○中・高学年の外国語の授業でもダンスイングリッシュなど楽しく英語に慣れ親しむ活動を多く取り入れた。 ○6年生では修学旅行で外国人にパンフレットを渡して、鈴鹿市の魅力などを英語で発信させた。 ○週に3日、ALTが勤務し、給食を教室で一緒に食べるなど様々な場面でかかわることができた。	○英語に興味を持ち外国の方とコミュニケーションを楽しめるように、様々な工夫をされていると思います。 ○子どもたちが英語に接することが楽しいと感じている様子で、良いと思います。 ○我が子も日常的に英単語をネイティブ発音で話したりして、英語が身近にあることがわかります。10年以上の実績があつての事だと思います。流石です。 ○子ども達が英語の授業や活動を楽しんでいると感じていて良いと思う。 ○小学校の時から、外国人の生の英語に接することにより、英会話等の向上が見込まれる。 ○外国人に対するコンプレックスがなくなり、今後も継続的に実施することを期待する。 ○6年生の修学旅行体験はすばらしいと思います。 ・英語に低学年から接することは必要だと思うが、苦手だと感じる子どもがいないことが最も大切だと思う。 ・児童が(楽しい授業と思うので)、和気あいあいの授業を行ってほしい。 ・自然に英語を話せるようになればいいですね。	・合川小学校で培われた外国語にかかわる楽しい活動や授業を新たな学校でも引き継いでいく。
	4 家庭学習の定着 ・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。 (児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」90%以上)	●児童アンケート76 % (79 %)	○研修部で作成した「家庭学習の手引き」を活用し、自主学習の進め方について各学年で指導した。 ○「家庭学習レコーダー」を作成し、視覚的に学習時間をとらえられるようにした。 ○家庭学習強化週間などの際に、[15分×学年]の家庭学習時間を意識するよう児童に促した。 ○レインボーホール前に、自主学習ノートのコピーを掲示するを行うことで、自主学習に取り組む児童の意欲を高めたり、自主学習の書き方の参考にとして示すことができた。 ●学年が上がるほど、児童は放課後や休日に習い事があり、[15分×学年]の学習時間の確保が難しい現状がある。 ●自主学習ノートの活用など、主に紙媒体の自主学習の方法しか発信できていない現状がある。	○目標に達していないが、児童アンケートによる結果なので、「15分×学年」は目標ではあるが、少ない子がいてもいいと思う。集中できる時間は個人差が大きい。 ●15分×学年の学習時間を促すため、宿題を増やすことが行われているとしたら、子どもたちや保護者が負担に感じているかもと思います。(宿題無しで自主的な学習を促すのも、難しいかと思われるが) ●紙媒体の学習の発信でも十分だと思います。私は紙媒体の方が達成感が得られるように思います。 ・自主学習は個人差がありますが、少しでも習慣になればと思います。 ・習い事で学習時間の確保が難しい状況があっても、習い事も学習であり、習い事のある日に家庭学習の時間が少なくとも、何も問題ないと思う。 ・「15分×学年」。6年生は1時間半。1時間半の勉強量は、課題を出すほうも大変ですね。	・「15分×学年」という目標は大切にしつつも、むやみに宿題を増やすのではなく、児童が自主的に宿題以外の学習に取り組めるような環境づくりを心掛ける。

長期欠席対策	<p>1 新たな不登校を生まない学校づくり ・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。 ・教職員間で情報共有を図り、共有した対応を行う。 (児童アンケート「学校は楽しいですか」100%)</p> <p>2 保護者との連携 ・日常的に保護者との関りを密にし、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。 (保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にされた教育活動を行っていますか」95%)</p>	<p>●児童アンケート86 % (91 %)</p> <p>○保護者アンケート98 % (97 %)</p>	<p>●学級づくりは、各担任が1年間で、「どんなクラスにしたいか」「どんな力をつけたいか」という学級経営が反映される。学習面だけでなく、人間関係(教師と子ども、子ども同士)にどこまで担任が敏感になれるかという課題がある。 ○児童の気になる行動や発言は、教職員間で情報共有したり、対応を考えたりした。</p> <p>○児童の欠席が続いたり、気になる行動があったりした際は、保護者に電話連絡や庭訪問を実施した。 ○保護者の困り感をキャッチした際は、支援会議または相談会を開いた。会議には、関係機関にも入ってもらい、専門的な助言をいただくこともあった。</p>	<p>●児童アンケートの数値が下がっているのは気になります。ただ、人間関係は見た目だけで判断できないことも多いだろうし、効果的な取組というのも難しいのかと思います。 ●児童アンケートの結果が気になります。子どもたちとの関わりも密に行っていたのに、何が足りないのでしょうか。不思議ですね。不登校児童に対しても、運動会のアナウンスを頼むなどして合川小の在校生として活動できる場を設けたアイデアは、すごく素敵な取組だったと思います。 ●児童全員が「学校は楽しい」と感じることは難しいとは思いますが、これからも100%を目指してほしいと思う。 ●先生を信頼して何でも話せる雰囲気があるのが理想であるが、先生が忙しかつたり余裕がなかったりすると難しい。 ・学校全体で共有し、見守りを続けていただきたいと思います。</p> <p>○努力されていると思います。 ○保護者との連携が上手くいっていることも、児童数が少ない合川小の良い面であるかと思います。 ○保護者アンケートの結果、少しずつ良くなっており、保護者との信頼関係ができていていると感じる。</p>	<p>・次年度、学級の児童数が増えれば、担任が児童一人ひとりと関わる時間は今よりも減ることが考えられる。職員間で密に情報交換を行いながら、日々の子どもの様子や変化を捉えられるようにしたい。</p> <p>・日々の連絡調整や外部機関の活用など、児童や家庭に合わせた対応を考え、不登校児童と学校をつないでいく。</p>
非認知能力育成	<p>1 粘り強く取り組む態度の育成(やりぬく力) ・学習や学校生活における目標やめざすべき姿を明確にし、粘り強く物事に取り組ませる。 (児童アンケート「学習や生活で自分の決めた目標に向かってあきらめずに取り組みましたか」90%以上)</p> <p>2 決められたことに対して計画的に取り組む姿勢(自制心) ・授業の課題や宿題に対して、計画的に学習を進めさせる。 (児童アンケート「学校での学習や宿題を計画的に取り組めましたか」90%以上)</p>	<p>○児童アンケート93 % (91 %)</p> <p>●児童アンケート88 % (91 %)</p>	<p>○全校で「あいかわパワー」という児童にもわかり易い言葉で、「やりぬく力」を発揮する具体的な姿を示した。 ○教職員が「個別最適な学び」を意識したことで、普段の授業で、児童が目標に対してどのように取り組むか考える機会が増えた。 ○行事等の活動を通して、児童が目標や目指す姿を主体的に設定・共有できるように指導し、事後に振り返りを実施した。</p> <p>○全校で「あいかわパワー」という児童にもわかり易い言葉で、「自制心」を発揮する具体的な姿を示した。 ○教職員が「個別最適な学び」を意識したことで、普段の授業で、学習の手段や形態などの学習計画を児童に考えさせる機会が増えた。 ●今年度から児童が学習方法を選択する機会が増加した反面、時間の使い方や学習手段の選択が難しい児童にとっては、計画通りに進められないこともあった。</p>	<p>○すばらしいと思います。 ○あきらめずに取り組めたという児童が93%というのは、素晴らしいと思う。 ・やりぬく力は大事なことです。 ・児童をほめて、本人の能力を引き出すようにする。</p> <p>○努力されていると思います。 ○児童によっては、実行することや努力することができても、計画を立てることが苦手な子どもが多いのではないか。88%という数字は素晴らしい。 ・やりぬく力と自制心の両立ができると良いと思います。</p>	<p>・非認知能力を児童にもわかりやすい言葉で示し、授業や行事のめあてや振り返りで意識させられるようにしたい。 児童があきらめずに学習に取り組めるように、目標を示したり、計画を立てたりする活動を今後も取り入れることで、やりぬく力を育てたい。</p> <p>・非認知能力を児童にもわかりやすい言葉で示し、授業や行事のめあてや振り返りで意識させられるようにしたい。 ICTや紙媒体、個人と集団など児童が自分に合った学習の手段や形態を選択できるような授業づくりを今後も心掛けることで、自制心を育てたい。</p>
	<p>3 学校行事や学年行事の充実(自己肯定感) ・学校行事や学年活動等で児童一人ひとりに目的を持たせ、結果の振り返りや教師の評価を通して、自分の良さを認識できる場を設ける。 (児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」90%以上)</p>	<p>●児童アンケート83 % (93 %)</p>	<p>○学校行事や学年活動の際には、目指す姿を伝え児童一人ひとりに目標を持たせた。行事に向かう途中、終了後には自分自身を振り返るとともに、教師の振り返りも伝えてきた。 ●自分のよいところ＝目に見えて人よりできているところと、捉えている児童がみられた。 ●設定した目標を達成できても、それが自分の良い姿であることに結び付いていない児童がみられた。 ●結果だけでなく、過程を自分自身で評価することが難しい姿がみられた。周りが過程の中での努力や成長、粘り強さなどを価値づけていかなければならない。</p>	<p>●自分の良いところは、自分では認識しにくいと思います。 ・自分自身の評価は難しいので、周りの人がほめる事が大切だと思います。 ・結果が良ければ本人にもわかりやすいが、過程を子どもが自分で評価することはとても難しいと思う。先生や保護者が良いところを見つけてほめることで、自己肯定感が上がると思う。</p>	<p>・職員間で児童の良いところを見つけて伝え合い、その内容を児童へフィードバックしてあげることで、いろんな側面から良いところを見つけて伝えることができる。 ・全部教師がするのではなく、子どもたちを動かす場面を増やしていくことで子どもたちが自分で動くことができるようになる。そうすることで、子どもたちへ感謝を伝えることやほめることができるので、そういう機会を作っていきたい。</p>
	<p>4 仲間を大切にしている活動の充実(社会性) ・学校行事や学習で、友だちと触れ合う機会を通して、仲間を思いやる気持ちや社会性を育む。 (児童アンケート「学習や行事、普段の生活で、友だちと仲良くすごしたり活動したりすることができましたか」90%以上)</p>	<p>○児童アンケート97 % (97 %)</p>	<p>○児童会活動やたてわり班活動、児童集会の場面で、他学年の子にやさしく教えたりといった姿がみられた。また、集団活動が苦手な子に対しても、その子の様子に寄り添って、遊びに誘ったり、そっとしておいたりする姿がみられた。 ●高学年がさまざまな場面で、良い見本となっている姿を多く見ることができたが、勝ち負けのある遊びの際、低学年の子に手加減をしたり、ゆずるといふことよりも、自分たちの楽しい気持ちを優先してしまうこともある。</p>	<p>○子どもたち主体の運動会は、とてもすばらしかったと思います。 ○たてわり班活動のように、他学年との関りは、上級生、下級生のどちらにも好影響があると思います。 ○合川小学校全体が優しさの雰囲気に包まれていると思います。いい雰囲気では好きです。 ・勝ち負けのある遊びの際、低学年の子に手加減をしたりゆずったりする必要はないと思う。</p>	<p>・たてわり班活動などの異学年とのかかわりがある活動を継続していきたい。</p>

地域との連携	<p>1 鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進 ・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。 (保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努めていますか」90%以上)</p> <p>2 情報発信の推進 ・学校だより、学年通信、ホームページ、メール配信などを活用し、情報発信に努める。 (保護者アンケート「学校は、学校だより、ホームページ、メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」90%以上)</p>	<p>○保護者アンケート98 % (95 %)</p>	<p>○学校運営協議会で、学校の経営方針や教育活動、学力向上、不登校対応、非認知能力育成等について周知し、成果や課題を共有することができた。課題については協議を行い、委員からのご意見やご助言を受けて、教育活動に反映してきた。また、学習支援部、環境部、安全部に分かれ、それぞれのテーマ別にグループ討議を行い、学校の教育活動の推進を図った。 ○今年度は、授業参観や出前授業、不審者侵入防止訓練など、様々な学校行事に学校運営協議会委員や保護者、地域の方に出席していただき、児童の様子を観察していただく機会を積極的に設けた。 ●学校主体の討議が多くなり、学校運営協議会委員が主体となる討議の場が少なかった。</p>	<p>○学校・地域・保護者全体での活動が共有されていると思います。 ○地域の人や保護者等が観察できる機会が多くあり、学校の教育活動への理解・関心が深まる。 ○保護者アンケート98%は素晴らしいと思う。 ○学校運営協議会で、学校の経営方針などを周知していただき、成果・課題の共有ができて理解が深まった。 ○授業参観や出前授業などの学校の行事に参加できる機会を作っていただき、児童の学校での状況を知ることができ、有意義であった。 ○●授業参観や出前授業等の学校行事に運営委員が参加するようになったのは、一つの成果であったと思います。できれば、もっと多くの委員が参加できるように工夫すること。 ●現状で、学校と地域、保護者とは、良好な関係が保たれていると思いますが、来年度以降には不安を感じる面もあります。(今が良好なだけに)</p>	<p>・学校経営方針や学校運営について、学校運営協議会と共有を図り、ご意見やご助言を反映させた上で、共働して学校運営に取り組んでいく。 ・日常の授業や学校行事、出前授業等を参観していただく機会を設け、児童の姿を通じた学校の教育活動について協議を行う。 ・再編についての課題や問題点を協議し、児童が不安なく学習・生活できる環境整備を行う。</p>
安全安心な学校づくり	<p>1 いじめのない学校づくり ・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。 ・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止、早期発見、早期対応に努める。 (児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」100%) (保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切にし、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」90%以上)</p> <p>2 登下校の安全確保 ・PTAや安全ボランティア等と連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。 (児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」90%)</p>	<p>●児童アンケート98 % (99 %) ○保護者アンケート100% (100%)</p>	<p>○日頃から全教職員で児童の様子を見守り、教職員間での情報共有をこまめに行い、気になることがあればすぐに対応するようにしている。毎学期行ういじめアンケートでいじめが予測された際は、いじめ防止対策委員会を開催し、管理職も含めた複数体制で、その後の指導や対応について話し合い、未然防止に努めた。 ○いじめ防止月間の取り組みの一つとして、全校で「いじめ防止川柳」作りに取り組み、いじめを生まない・いじめを絶対に許さないための意識付けをすることができた。 ○昨年度に続き、ホンダヒートの出前授業でいじめ防止の啓発してもらい、改めていじめを許さないという意識付けとなった。</p>	<p>○アンケートなどで意識づけを行い、とても努力されていると思います。 ●SNSトラブルについては、家庭での管理が主になると思うので、PTAの家庭教育学級なども利用して、保護者向け教室もあっていいような気がします。 ○「いじめ防止川柳」作りは、ユニークな取組だと思います。 ・今後も、話しやすい環境、体制作りに努めてください。 ・日ごろから、クラス全体で考える場をもうける。 ・児童アンケート98%なので、2%の子どもの理由を聞いてみたいと思う。</p>	<p>・日頃から職員の児童見守り・情報共有を継続していく。 ・SNSの使い方については、児童に向けてICT支援員によるネット利用モラル教室(1学期)やインターネットの使い方出前授業(2学期)を行った。保護者への啓発も今後できるとよい。</p>
安全安心な学校づくり	<p>3 防災教育・安全教育の推進 ・防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知、予測や判断力を高め、自分の命は自分で守れる児童を育てる。 (防災訓練年3回、安全教室2回実施) (保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」95%以上)</p>	<p>○保護者アンケート100 % (100 %)</p>	<p>○毎日、たくさんのボランティアの方に登下校の見守りを行っていただき、児童が安心安全に通学することができた。 ○地域の方からいただいた情報や意見をもとに、通学路の見直しを行った。 ○児童や保護者から連絡のあった不審者情報に対して、警察、教育委員会との連携や教員の付き添い、保護者への周知など、迅速な対応を講じることができた。 ●猿やイノシシなど、野生の動物が通学路に出没することが増えている。動物に対する対策が課題である。</p>	<p>○ボランティアの方は、とてもすばらしいと思います。 ○ボランティアの方の意識が高く、連携されていると感じた。 ○不審者情報に対するの対応が早く、事件にならず防ぐことができていた。 ○本校は良くできていると思う。 ○ボランティアの方々に見守りを行っていただけて、安心だと感じる。 ●野生動物への対応は、教職員、保護者、ボランティアで何とかする範囲を超えていると思いますが、全て駆除すれば良いことでもないし、困難な課題だと思います。 ●他校(他地区)の登下校時の見守り状況をたまに目にするところがあるが、それと比べると、ボランティアの数が少ないように見受けられる。 ●保護者も朝の登校時を除き下校時は手薄であり、もっと関心を持たせる必要がある。 ●昔の通学班は、5・6年生の上級生が下級生を誘導し、下級生はそれに従っていたようであるが、現在はそんな姿はなく、「集団登下校をする意味」の見直しをする必要があるのかもしれない。</p>	<p>・日常的にボランティアの方の協力を仰ぎ、保護者や地域と連携して、児童の安全確保に努める。 ・不審者や動物の情報について速やかに情報発信を行い、安全対策を講じる。 ・今後も継続してボランティアの募集を行う。 ・バス通学の課題や問題点が見られたときは、その都度指導を行う。 ・バスの乗降場所まで安全に登下校ができるよう、通学班の状況を把握し、必要に応じて指導を行う。</p>
教職員の働き方改革	<p>1 教職員の総勤務時間の縮減 ・一人当たりの月平均労働時間 30時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 12人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 10日以上 ・設定した日の定時に退校できた職員員の割合 60%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 40%以上</p>	<p>○月平均労働時間時間 21.8時間(R6:22.3時間) ○月45時間超時間外労働者 延べ4人(R6:7人) ○年360時間超え時間外労働者 0人(R6:1人) ●年間休暇取得日数 11.9日(R6:11日) ○定時退校日実施率 67.4%(R6:69.9%) ○60分以内に終了した会議 32%(R6:36.4%)</p>	<p>○教職員一人ひとりが時間外勤務を減らそうという意識を持ち、効率的に業務をこなすことができています。 ○毎週1回行う教職員の打ち合わせに端末を活用したことで、文書の印刷や配布等の手間が省け、時間の効率化につながった。 ●会議の効率化については、1時間以内に終了する計画をしたものの、提案や進行の仕方について工夫と改善が必要であった。協議内容や伝達の仕方について、会議時間の縮減の重要性を一人ひとりが意識することが必要である。</p>	<p>○とても努力されていると思います。 ●時おり、担任が会議などで出張のため、代わりの教員が教えることがあるが、担任は子どもからの信頼すべき人物であり、他に方法がないのか。できる限り担任の授業は確保させ、会議出席などへ他の者を参加させたらどうか。 ●職員の仕事改革は大きな課題であると考えています。有給取得日数が11.9日であり、一般の企業においては20日を目標にしていることなどから、目標設定が高い取り組みとするべきであると思います。 ・今後も、教職員が働きやすい職場環境づくりが進むことを期待します。 ・引き続き、働き方改革を進め、改善してほしい。</p>	<p>・今後も、教職員の働き方改革における勤務時間の縮減について、取組を進めていく。 ・個々の教職員の特性を活かし、業務の偏りがないように配慮した校内人事を行う。 ・今年度、有給休暇の取得率が向上したが、今後も校務や会議等の持ち方を考慮し、有給休暇取得の促進を図る。 ・事務職員からも、適宜個々の有給休暇残日数を連絡し、積極的な休暇取得を呼びかける。</p>